

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284048

研究課題名(和文) 唱導文献に基づく法会の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on Dharma Assemblies through Sources of Preaching

研究代表者

近本 謙介(Chikamoto, Kensuke)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90278870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：寺院や文庫に所蔵される唱導文献に関する研究において、唱導の実態や構造分析、法会・儀礼の場の研究は今後の課題である。このような状況に鑑み、諸寺院・文庫に伝存する唱導・法会関係テキストの調査・分析を進め、「法会学」提唱に向けて成果を積み重ねた。

主たる研究成果として、金剛寺における聖教目録の作成および善本叢刊出版、勸修寺における文化財指定への最終準備、金沢文庫における神祇関係の唱導を中心とする展示企画の立案等がある。また、東アジア唱導文芸との比較研究を目的として、複数の国際研究フォーラムを開催し、その成果を書籍2冊にまとめることが決定した。

研究成果の概要(英文)： In the research on monastic and archival texts on preaching (shodo), the next tasks entail analyses on the actual circumstances and structures of preaching and investigation into the spaces of dharma assemblies(ho-e) and rituals. In order to address these issues, this project has conducted surveys and analyses of monastic and archival texts related to preaching and assemblies, and has accumulated results in seeking to establish a study of dharma assemblies.

Chief among these results include the creation of a catalogue of sacred writings held at Kongoji; making the final preparations for the official designation of cultural properties of Kajuji; and the proposal of an exhibition project at Kanazawa Bunko archive focused on preaching related to gods. Moreover, with the objective of comparative research of the literary arts of preaching throughout East Asia, this project has held multiple international forums, the results of which are set to be summarized in two volumes.

研究分野：日本文学

キーワード：唱導 法会 復元的研究 東アジア 宗教文献 南都 安居院 院政

1. 研究開始当初の背景

寺院に所蔵される聖教をはじめとする文献資料に関する調査・研究の飛躍的な進展は、説話や軍記等の唱導と結びつく領域に多大な影響を与えることとなった。その一方で、唱導そのものの分析や、法会の場を総合的に捉えようとする試みは十分には進んでおらず、日本中世の「法会学」の構築は今後の課題である。

研究開始当初の背景をまとめると、以下の2点に集約される。

- (1) 寺院聖教調査の飛躍的な進展と、それらの調査に基づく研究の深化によって、本研究課題に結びつく研究環境が整えられた。また、研究代表者が携わってきた寺院調査においても、あらたな資料の発見・目録の整備等が進み、研究推進の状況が熟してきたと判断された。
- (2) 法会に対する国内外の注目の高まりを受け、密教図像学・宗教的身体テクストの観点等から法会・唱導テクストの分析を進める必要が生じてきた。

これらの動向を踏まえて、法会や唱導に関わる文献を総合的に位置づけようとする本研究が立案された。

2. 研究の目的

本研究は、上記の研究状況を背景として、あらたな法会・唱導学を創成することを目的として立案・推進した。

法会の場は、ことば・ほとけ・図像が交響する総体として捉えられるべきものであり、人文学の領域横断的・複合的な研究が不可欠である。本研究はそうした問題意識に基づく研究組織を以て総合的かつ復元的研究を目指したが、最も焦点化しようとするのは法会における唱導のことばの担った領分の解明である。課題名を「唱導文献に基づく」と謳う所以である。

儀礼学が夙に発達した西洋の宗教研究に比して、東洋の法会・儀礼研究は未だ確立されてはいない。この問題に、唱導の領域から分け入り、総合的な分析に至ろうとするのが本研究の意図するところである。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者と研究分担者が継続してきた各々の寺院調査の実績に基づき、それらの調査結果を横断的に連携させることにより、唱導文献に基づきながら法会の総合的解明を目指す方法をとった。これは各寺院の調査による成果を、有機的に結びつけていくことも意図している。

唱導のことばの領域から新たな法会学を構築しようとする研究は従来あまり見られず、それを領域横断的・複合的な観点から法会の場に総合的に定位しようとする点に本研究の方法の独創性がある。本研究によって、

唱導文献に記載された内容の施主・時・場所等を特定する成果が得られることを目論むと共に、唱導のことばが法会の場とどのように結びついていたのかを解明する方法を意識して研究を進めた。

また、本研究は、法会の復元的研究と東アジア宗教文献との比較対照研究を併行して行う方法を採用した。芸能や音楽を伴う法会の場の分析は、できうる限り復元的になされるべきであり、学術的分析に基づく復元・再現は、法会を理解する上で大きな意義を有するものと判断したからである。

唱導研究において東アジアの宗教文献との対照研究はいまだ十分な研究が進んでおらず、敦煌文献等との比較による相対化は、日本の唱導を定位する上で必須の作業である。同時に、日本に伝わる院政期から中世にかけての豊富な唱導資料群は、逆に敦煌文献に記される法会をはじめとする東アジアの法会の実態解明に資する価値を有しており、対照研究から得られる成果は多大であると思われる。

また、本研究推進の過程で作成した法会・唱導に関する目録や奥書等の情報は、今後の法会唱導研究に大きく寄与するものと考えている。

以下、実際の調査・研究方法について言及する。研究の基盤を寺院における唱導文献調査に置くが、法会の総合的解明を目指しているため、調査フィールドは仏像彫刻・絵画・芸能・儀礼・仏堂等多岐に及ぶ。そこで研究代表者が関与しつつ対象とテーマによるワーキングチーム(WT)を構成して調査に当たった。

研究フィールドとしては、情報収集した唱導文献の分析が重要な位置を占めるため、構成員がそれぞれ研究を進めながら、年に数回の共同研究の場を設定した。

法会の復元的研究については、研究協力者および関連する連携研究者と復元課題に取り組み、研究期間内に成果発表の場を設けるなど、できる限り公開あるいは社会への還元を意識しつつ取り組むこととした。

東アジア宗教文献との比較研究は筑波大学と広島大学にWTを結成して作業を進め、隔年で国際研究集会を開催した。

また構成員が本研究の成果を発表する展開・連携フィールドを国内外に確保することを心がけた。

4. 研究成果

寺院や文庫に所蔵される唱導文献に関する研究において、唱導の実態や構造分析、法会・儀礼の場の研究は今後の課題である。このような状況に鑑み、諸寺院・文庫に伝存する唱導・法会関係テクストの調査・分析を進め、「法会学」提唱に向けて成果を積み重ねた。

以下、主たる研究成果を調査・研究対象ごとに区分して記述したうえで、総合的な成果

について言及する。

- (1) 真福寺の調査・研究においては、主要聖教の調査・分析を継続し、黒板勝美目録との照合へとつなげるべく、奥書等の情報を収集した。黒板目録入力の下準備が整えられた段階にあり、次の研究段階への継続が完成した状況である。また、2012年に開催した展覧会「古事記1300年 大須観音展」および典籍解説図書の出版を継承しつつ、特に唱導・法会関係聖教の調査・分析を進めた。これらの研究の延長線上に、他の寺院に蔵される聖教との比較対照研究の必要性が浮かび上がってきている。この点については、次の研究課題として位置づけ、継続・発展的研究成果に結びつけるべく計画を立案済みである。
- (2) 金剛寺においては、聖教目録の作成を主要な事業と位置づけ、後藤昭雄成城大学教授および海野圭介国文学研究資料館准教授のグループとの共同研究体制を確立し、悉皆目録作成の基礎的段階となる棒目録を完成させるに至った。同時に、目録作成の知見を活かすと共に個々の典籍の調査・研究を推進し、天野山金剛寺善本叢刊出版への道筋をつけ、出版社に拠る刊行の合意も取りつけるに至った。
- (3) 勸修寺における重要文化財指定に向けての最終準備は、研究分担者上島享主導によって進められ、調査済み聖教・文書類の再確認等、指定に向けての作業が着実に終了しつつある。
- (4) 神奈川県立金沢文庫における調査・研究は、唱導テキストを中心とする連携展示につなげるべく推進した。称名寺に伝わる豊富な唱導関係資料を保管する金沢文庫において、神祇関係の唱導を中心とする展示企画を平成30年度に開催すべく調整を進めた。
- (5) 東アジア唱導文献との比較対照研究を目的とする研究成果報告の場として、「東アジア宗教文献国際研究フォーラム」を、台湾国立政治大学および筑波大学で開催した。前者のフォーラムにおいては、日本の唱導文献に関する研究成果を、敦煌学をはじめとする研究者に向けて発信するかたちで行い、東アジア唱導研究について多くの問題を共有することができた。後者においては、玄奘三蔵をテーマとして領域横断的な共同研究成果報告を行い、中央アジアを含む玄奘研究の新地平を切り拓くことに成功した。この研究成果は、研究期間終了後の平成30年度中に刊行する図書で学会および社会に還元する予定であり、出版社との合意もすでに取りつけている。この研究成果は、さきで開催したタシケント国

立東洋学大学におけるシルクロードをテーマとする国際研究フォーラムと連動するものであり、タシケントにおける研究成果についても、平成29年度中に刊行する運びとなっている。

- (6) 唱導文献に基づく法会の復元的研究については、『転法輪鈔』の紹介を中心とする共同研究を進めると共に、法会と芸能とのかかわりを考える上で重要な後白河院時代の法会について情報収集を進めた。個別の研究成果については、学会等で報告済みであるが、さらなる統合的研究に進展させる計画を新たに策定中である。

上記の諸調査・研究対象寺院・文庫における研究成果を通して、以下の点が明らかになってきた。

- (1) 唱導資料の用いられた法会の場の特定と、法会の場の具体的な内容やありかた。
- (2) 個々の法会における唱導のことばの領域と仏像・絵画・音楽・芸能等との密接なかかわり。
- (3) 聖教書写における諸寺院のネットワークとその実態。
- (4) 東アジアの唱導研究における日本に伝存する諸資料の有益さと比較対照研究の重要性。
- (5) 法会の復元的研究における唱導資料読解の方法と、後白河院政期における音楽・芸能とのかかわりの具体的なありかた。

上記の研究成果については、後継の共同研究に発展的に継承されており、出版予定の書籍についても、研究期間終了後に着実に刊行済み、あるいは刊行に向けて準備が進んでいる。

また、後継の共同研究課題においては、調査・研究対象資料を、人類文化遺産として定位するとともに、保存していくプロジェクトへの展開を計画し推進している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計29件)

Kawasaki Tsuyoshi, The Invention and Reception of the Minoodera engi, Japanese Journal of Religious Studies, 査読有、42(1)、2016、134-155

上島 享、本願手印起請の成立 真っ赤な手印が捺された文書をめぐって、鎌倉遺文研究、査読有、35、2015、1-28

藤岡 穰、京都・某寺と兵庫・慶雲寺の半跏思惟像、美術フォーラム21、査読無、32、2015、89-96

近本 謙介、南都における浄土信仰の位相 貞慶と『春日権現験記絵』をめぐって、国語と国文学、査読有、1098、2015、

52-65

近本 謙介、『撰集抄』の枠組みとしての西行仮託再考、西行学、査読有、5、2014、21-36

上島 享、金峯山信仰史再考、説話文学研究、査読有、49、2014、55-68

近本 謙介、金峯山史の記憶をたどる記録と文芸再考、説話文学研究、査読有、49、2014、72-76

阿部 泰郎、中世宗教テキストとしての和歌と唱導 賀茂重保と澄憲、仏教文学、査読有、39、2014、33-57

荒見 泰史、唐代仏教儀礼及其通俗化(上)、アジア社会文化研究、査読有、15、2014、21-46

荒見 泰史、二月八日の出家踰城と敦煌の法会、唱導、敦煌写本研究年報、査読有、8、2014、31-45

苔米地 誠二、海住山寺聖教について、智山学報、査読無、63、2014、239-256

苔米地 誠二、隆海一門(家隆流)と高野山伝法院、大正大学大学院研究論集、査読無、99、2014、1-13

藤岡 穰、関山神社蔵 銅造菩薩立像、国華、査読有、1420、2014、20-26

松尾 恒一、大神神社の巫女と神楽中・近世から近代における断絶と復興の試み、奈良県民俗芸能緊急調査報告書、査読無、無、2014、17-29

近本 謙介、『春日権現験記絵』解脱上人・貞慶と縁が深い絵巻、週刊朝日百科新発見「日本の歴史」、査読無、21、2013、30-32

阿部 泰郎、The position of gammon in medieval Japanese Buddhist rites: Gammon as core religious texts、国際東方学者会議紀要、査読無、57、2013、57-79

荒見 泰史、遊僧與芸能、敦煌吐魯蕃研究、査読有、13、2013、79-96

藤岡 穰、歴史ミュージアム 飛鳥仏と中国・南朝様式、週刊朝日百科 新発見「日本の歴史」、査読無、3、2013、34-36

藤岡 穰、The mass-Production of Buddhist Sculptures in the late Heian Period and a Buddhist Sculpto Jochor、The Challenge of the Object、33rd Congress of the International Committee of the History of Art、Congress Proceedings、査読有、3、2013、931-934

松尾 恒一、2000年歴史絵巻 祭りと行事、週刊朝日百科 新発見「日本の歴史」、査読無、23、2013、33-37

〔学会発表〕(計47件)

近本 謙介、文化史のうちなる翻案と翻訳 西行の和歌と伝承をめぐって、翻訳・翻案と日本文化 テクストの世界展開をめぐって(国際学会)2016.3.17、

タシケント(ウズベキスタン)

近本 謙介、聖徳太子をめぐる聖遺物とその重層的展開 未来をかたる書とモノのマテリアリティー、The Materiality of the Sacred in Medieval Japan and Europe: Buddhism, Shinto, Christianity(国際学会)2016.3.2、ハイデルベルク(ドイツ)

近本 謙介、『玄奘三蔵絵』の構造と構想、第5回東アジア宗教文献国際研究集会「玄奘フォーラム」(国際学会)、2015.12.13、筑波大学東京キャンパス(東京都)

荒見 泰史、敦煌文献から見た玄奘三蔵、第5回東アジア宗教文献国際研究集会「玄奘フォーラム」(国際学会)、2015.12.13、筑波大学東京キャンパス(東京都)

本井 牧子、慈恩をめぐる唱導における玄奘、第5回東アジア宗教文献国際研究集会「玄奘フォーラム」(国際学会)、2015.12.12、筑波大学東京キャンパス(東京都)

藤岡 穰、東アジア金銅仏の成分分析からわかること、日本学術振興会科学研究費助成事業「5~9世紀東アジア金銅仏に関する日韓共同研究」・大阪大学総合学術博物館国際シンポジウム「金銅仏の制作技法の謎にせまる」(国際学会)、2015.12.12、大阪大学(大阪府)

藤岡 穰、中国南朝造像とその伝播、The International Symposium on "masterpieces of Early Buddhist Sculpture, 100BCE-700CE(国際学会)2015.10.30、ソウル(韓国)

近本 謙介、大般若経と春日若宮信仰 女院と尼僧の鎌倉文学史、説話文学会、2015.9.27、根津美術館(東京都)

近本 謙介、調査報告 聖徳太子二歳像 納入品の戒律記事について、ハーバード大学美術館調査報告研究会(国際学会)2015.3.23、ケンブリッジ(アメリカ)

近本 謙介、知の共有と戯曲への翻案 前近代から近代へ、2015タリン大学・筑波大学共催日本研究ワークショップ(国際学会)2015.3.12、タリン(エストニア)

近本 謙介、玄奘三蔵の記憶 日本中世における仏教東漸の構想、タシケント国立東洋学大学・筑波大学シルクロード国際研究フォーラム(国際学会)、2014.11.15、タシケント(ウズベキスタン)

本井 牧子、彷徨える仏像 清涼寺蔵『釈迦堂縁起』の釈迦像、タシケント国立東洋学大学・筑波大学シルクロード国際研究フォーラム(国際学会)2014.11.15、タシケント(ウズベキスタン)

近本 謙介、金剛寺聖教形成における『清水寺縁起』の位置、仏教と文学 日本金

- 剛寺仏教典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム(国際学会) 2014.10.25、北京(中国)
- 阿部 泰郎、宗教遺産としての聖徳太子法隆寺上宮王院の宗教空間と聖遺物としての太子宝物、「宗教遺産学の構築」研究成果報告国際シンポジウム(国際学会) 2014.10.11、ケンブリッジ(アメリカ)
- 近本 謙介、書物とことばの仏教文化史 唱導・説教の地平から、リュブリャーナ大学・筑波大学日本研究フォーラム(国際学会) 2014.8.31、リュブリャーナ(スロベニア)
- 阿部 泰郎、中世日本の唱導における書物とことば 説経師の宗教テキスト生成、リュブリャーナ大学・筑波大学日本研究フォーラム(国際学会) 2014.8.31、リュブリャーナ(スロベニア)
- 荒見 泰史、敦煌本『茶酒論』と法会における滑稽戯、リュブリャーナ大学・筑波大学日本研究フォーラム(国際学会) 2014.8.31、リュブリャーナ(スロベニア)
- 近本 謙介、法会の背景と起源をかたる宗教テキスト 南都における唱導をめぐる、EAJS大会(国際学会) 2014.8.29、リュブリャーナ(スロベニア)
- 阿部 泰郎、ルチア ドルチェ、伊藤 聡、柴 佳世乃、米田 真理子、中世における宗教的身体、EAJS大会(国際学会) 2014.8.29、リュブリャーナ(スロベニア)
- 近本 謙介、前近代における知の共有と近代への展開 文芸と芸能の視座から、ベルリン自由大学・筑波大学日本研究ワークショップ「伝統の継承と再構築」(国際学会) 2014.3.26、ベルリン(ドイツ)
- 21 荒見 泰史、法照門徒的念仏行事と《法照伝》的宣唱、第4回東アジア宗教文献国際研究集会(国際学会) 2014.3.16、台北(台湾)
- 22 近本 謙介、唱導における勤進・託宣の位相、第4回東アジア宗教文献国際研究集会(国際学会) 2014.3.15、台北(台湾)
- 23 本井 牧子、唱導における仏伝と因縁の位相、第4回東アジア宗教文献国際研究集会(国際学会) 2014.3.15、台北(台湾)
- 24 荒見 泰史、敦煌本《五台山讃文》と念仏行事、齋会、敦煌、吐魯蕃国際学術検討会(国際学会) 2013.11.16、台南(台湾)
- 25 本井 牧子、朝鮮半島における『金蔵論』版本 仏書刊行の一例として、東方学会平成25年度秋季学術大会、2013.11.8、日本教育会館(東京都)
- 26 阿部 泰郎、中世仏教における 百科全書 テキストの系譜 密教図像集の形成とその展開、国際会議「仏教と百科事典」(国際学会) 2013.10.24、パリ(フランス)
- 27 近本 謙介、中世における法会儀礼の場における唱導の展開 京・南都と関東を結ぶ信仰と和歌、Religious Performance, City and Country in East Asia(国際学会) 2013.10.10、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)
- 28 荒見 泰史、The Ten Kings Worship and Prosperous Rituals in China During 9th and 10th Century、Religious Performance, City and Country in East Asia(国際学会) 2013.10.10、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)
- 29 川崎 剛志、靈山の時空の再構築 『箕面寺縁起』の出現とその余波、Religious Performance, City and Country in East Asia(国際学会) 2013.10.10、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)
- 30 阿部 泰郎、The Mushiboshi-ho e at Johana Betsu-in: An Unveiling Assembly as Urban Buddhist Ritual and Its Performance Arts、Religious Performance, City and Country in East Asia(国際学会) 2013.10.9、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)
- 31 松尾 恒一、死霊をめぐる神楽と鎮魂 いざなぎ流と比婆荒神神楽、Religious Performance, City and Country in East Asia(国際学会) 2013.10.9、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)
- 32 荒見 泰史、温室経講経与俗講、唱導、敦煌文化与唐代文学国際学術検討会(国際学会) 2013.9.13、蘭州(中国)
- 33 近本 謙介、『撰集抄』の枠組みとしての西行仮託再考、西行学会大会シンポジウム、2013.9.1、神戸大学(兵庫県)
- 34 荒見 泰史、敦煌本十齋日資料と齋会、儀礼、敦煌吐魯蕃国際学術検討会(国際学術学会) 2013.8.20、北京(中国)
- 35 苜米地 誠一、密教經典の日本伝来と成立 金剛智識とされる經典をめぐる、第2回中国密教国際学術検討会(国際学会) 2013.6.28、紹興(中国)
- 36 苜米地 誠一、海住山寺聖教について、智山勸学会、2013.5.25、真言宗智山派東京別院真福寺(東京都)
- 37 荒見 泰史、韓国東海三和寺水陸齋調査報告、国立歴史民俗博物館共同研究「東アジアの宗教をめぐる興交流と変容」、2013.4.27、国立歴史民俗博物館(千葉県)
- 38 近本 謙介、金峯山の記憶をたどる記録と文芸再考、説話文学学会シンポジウム「白河院金峯山御幸の記録と記憶 新出「江記逸文」をめぐる」(国際学会) 2013.4.20、慶應義塾大学(東京都)
- 39 上島 享、金峯山・熊野史研究再考、説話文学学会シンポジウム「白河院金峯山御

幸の記録と記憶 新出「江記逸文」をめ
ぐって」(国際学会)、2013.4.20、慶
應義塾大学(東京都)

- 40 川崎 剛志、金峯山における役行者の顕
彰、説話文学会シンポジウム「白河院金
峯山御幸の記録と記憶 新出「江記逸
文」をめぐって」(国際学会)、
2013.4.20、慶應義塾大学(東京都)

〔図書〕(計13件)

高橋 悠介、恋田 知子、近本 謙介、
貫井 裕恵、西岡 芳文、神奈川県立金
沢文庫、特別展 仏教説話の世界、2015、
120(76-77、114-116)

阿部 泰郎、落合 俊典、岡田 莊司ほ
か全15名、愛知県史編さん室、愛知県史
別編 文化財4典籍、2015、608(1-19、
186-208)

永村 眞、谷口 耕生、近本 謙介、横
内 裕人ほか全7名、論集 平安時代の
東大寺 密教興隆と末法到来のなかで、
法蔵館、2014、102(33-45)

近本 謙介、藤岡 穰、本井 牧子ほか
全34名、タシケント国立東洋学大学・筑
波大学シルクロード国際研究フォーラム
報告書、タシケント国立東洋学大学、2014、
238(24-32、50-60、61-70)

近本 謙介、荒見 泰史、本井 牧子ほ
か全37名、説話から世界をどう解き明か
すのか、笠間書院、2013、562(140-257)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近本 謙介(CHIKAMOTO, Kensuke)
名古屋大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 90278870

(2) 研究分担者

阿部 泰郎(ABE, Yasuro)
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 60193009

上島 享(UEJIMA, Susumu)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 60285244

(3) 連携研究者

藤岡 穰(FUJIOKA, Yutaka)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 70314341

荒見 泰史(ARAMI, Hiroshi)
広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号: 30383186

苔米地 誠一(TOMABECHI, Seiichi)
大正大学・仏教学部・教授

研究者番号: 00340456

川崎 剛志(KAWASAKI, Tsuyoshi)
就実大学・人文科学部・教授
研究者番号: 70281524

本井 牧子(MOTOI, Makiko)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号: 00410978

松尾 恒一(MATSUO, Koichi)
国立歴史民俗博物館・教授
研究者番号: 50286671